

TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

特別上映会 2/13 (土) ベルブホール (ベルブ永山 5F 京王永山駅・小田急永山駅下車徒歩約2分)



大崎章 監督作品

お盆の弟

©2015 映画「お盆の弟」製作委員会

www.tamaeiga.org/special/obonbrothers

ストーリー

売れない映画監督の渡辺タカシ(渋川清彦)は、大腸がんで入院していた兄のマサル(光石研)の看病という口実のもと群馬県玉村町にある実家に戻り、妻子と別居中。起死回生を狙って、これまた売れないシナリオライターで実家の焼きまんじゅう屋を手伝っている悪友の藤村(岡田浩暉)とシナリオづくりをしているが、藤村は新しい彼女に夢中のような。

あるとき、藤村に付き合わされた場でタカシは涼子(河井青葉)と出会う。なかなかの美人で性格もよさそうな涼子と独身の兄を引き合わせようとするタカシだが、どうやら涼子はタカシに対し本気になっている様子。そんななか、別居中の妻(渡辺真起子)から離婚したいとの申し出を受け、焦ったタカシは何とか妻の気持ちをつなぎとめようと映画の企画に必死になるが……。

タイムテーブル

2016年2月13日(土)

① 10:20 ~ 12:07

② 13:20 ~ 15:07

トーク 15:07 ~ 16:00

[ゲスト] 大崎章 監督、足立紳 氏(脚本)

③ 16:30 ~ 18:17

④ 18:50 ~ 20:37

チケット料金

[前売・インターネット予約]

1,000円 ※大人(中学生以上)のみ

[当日]

大人(中学生以上) 1,200円

子ども(4歳~小学生) 600円

TAMA映画フォーラム支援会員 600円
障がい者とその付き添い者1名 各600円

※トークはチケット(半券含む)提示で入場できます。※全席自由・各回入替制。開場は15分前です。
※上映時間に変更になる場合があります。

企画者からのメッセージ

東京から数時間の地方都市に舞い戻った男たち。私にとってなつかしい、高崎の中央銀座でのシーンがとくに印象に残った。現在はけっして明るく賑やかとはいえない商店街を歩きながら、大きな声をアーケードに反響させて、それぞれのプライドと意地と一発逆転への望みをかけた会話である。歩きながらの会話といえば、離婚を決定づける妻の言葉も鋭かったが。

あたりまえのことといえばそれまでののだが、自分で切り拓いているつもりは、その影響の大小はあるにしても、他者とのかわりによって一つずつ区切りがついていくものなのだろう。画面には現れない者も含めて、登場人物がかかりながら時が流れて、それぞれに笑ったり泣いたり、落ち込んだり決意したりする。そのうちに、観ている私たちも、自然と、胸に手をあてながら物語に入り込んでいく……。

多くのひとびとを惹きつけた本作を多摩で上映する機会に恵まれて大変うれしい。ここからきっと何かが生まれることだろう！
(山口渉/群馬県藤岡市出身)

ゲスト紹介

大崎章 監督

1961年生まれ、群馬県出身。龍村仁監督に師事して、ドキュメンタリー番組、CMなどを制作。その後フリーになり、助監督として『無能の人』(竹中直人監督)、『あの夏、いちばん静かな海。』(北野武監督)、『ソナチネ』(北野武監督)、『2/デュオ』(諏訪敦彦監督)、『洗濯機は俺にまかせろ』(篠原哲雄監督)、『式日』(庵野秀明監督)、『スリ』(黒木和雄監督)、TVドラマ『私立探偵濱マイク』などに携わる。『リンダリンダリンダ』(山下敦弘監督)では監督補を務めた。2006年に『キャッチボール屋』でデビュー。第16回日本映画批評家大賞 新人監督賞を受賞した。今作『お盆の弟』は、『キャッチボール屋』に続き脚本家の足立紳とタッグを組んで監督した。

足立紳 氏(脚本)

1973年生まれ、鳥取県出身。日本映画学校(現・日本映画大学)7期卒業。同期には映画監督の小沼雄一、脚本家の港岳彦他がいる。映画学校卒業後、相米慎二監督に師事。演劇活動、脚本執筆、公共広告の企画など幅広く活動している。2012年に『百円の恋』で第1回松田優作賞 脚本賞グランプリ受賞、2014年に映画化(監督:武正晴)され大ヒット。第17回 菊島隆三賞 受賞。



TAMA 映画フォーラム実行委員による

みんな大好き! スター・ウォーズ

ついに公開されたスター・ウォーズ サーガの新作

『スター・ウォーズ/フォースの覚醒』(J・J・エイブラムス監督)。

ここでは実行委員のスター・ウォーズに対する熱い思いを語ってまいります。



冒頭で「あの形」の戦闘機がアップで映った瞬間から、これはスター・ウォーズ旧三部作の続編なんだ、という強烈なメッセージが伝わってくる。軍事国家と反乱軍というわかりやすい構図も同じ。何より前作から 30 年後のお話に、相応に年齢を経たハンソロ船長やレイア姫がまた出ているではないか。もちろん、新キャラへの世代交代も忘れていない。レイとカイロレンの対峙は、今後の大きな展開を予感させてくれる。

J・J・エイブラムス監督は、1977 年からの旧三部作の雰囲気そのままに 2015 年の映像技術で再構築してくれた。ミレミアム・ファルコン号のボロさとか、エピソード 1 の約 70 年後の設定とは思えないほど(褒め言葉)。

スター・ウォーズがこれだけ愛されるのは、わかりやすい撃ち合いやチャンバラと、壮大な世界観との両立だろう。特に武士道にも通じるジェダイ騎士への厳しい道のりは、日本人なら見ないと損です。私はスピンオフ作品『クローン・ウォーズ』で復習したいところ。

(ルーク深谷)



これを書いていて申し訳ないのだが、私は洋画のシリーズものを追うのがとても苦手だったので本シリーズを観ていなかった。これはスター・ウォーズに限らず 2015 年でいうと、ワイスピも 007 もほぼ記憶にない。(唯一はハリポタ。)しかし、この祭りに乗らない訳にはいかない!と思い、2015 年一番の目標は「スター・ウォーズの新作までに旧作を制覇しておくこと」とし、秋までに無事観終えて待ち臨んでいた。

映画好きの間ではイマイチ流行っていない 4DX のチケットを予約し上映開始。あの音楽あの黄色い文字をスクリーンで観てと感動も束の間、動く動く。銃やミサイルが打たれるたびに顔横を風が走り、私はフォースを使えないけどフォースを受けてる!この世界に私もいる!となる 4DX だった。おすすめです。

どの人物も魅力的だけど、私はポーダメロンとチューバッカ推しだ。ポーはちょっとかっこ良すぎたし、チューイには毎度グツときてしまった。今後どうなるかわからなけど、彼らにもしものことがあったら、私は喪に服します。

(レイア菊池)

おまけ

演劇『スタア☆ウォーズのニセモノ』(五反田団)

今年は映画監督として 2 作品目の『ふきげんな過去』(出演:小泉今日子、二階堂ふみ他)も公開される前田司郎さんが主宰する五反田団の年に一度の「新年工場見学会」。今回の演目は『スタア☆ウォーズのニセモノ』でした。

昨年の TAMA 映画賞受賞の中島歩さんがハンソロ役、NEW WAVE ゲストコメンターの高橋大輔監督がお地蔵さん役で出演。意外にもストーリーはエピソード 4 の展開にちょっと似ていながらも、最後は主演のルーク(?)役の黒田大輔さん(『恋人たち』好演)が全員をぶった切って終わるという斬新な内容でした。最近チケットも取り辛いですが五反田団はやっぱりおもしろいです。

(シベリア吉野)

現在公開中の『スター・ウォーズ/フォースの覚醒』は、ジョージ・ルーカス監督の『スター・ウォーズ』のエッセンスを現在に合わせてアップデートされた素晴らしい作品でした。

個人的には、新作のクレジットの中に脚本家にローレンス・カスダンの名前があることに、アメリカ映画の懐の深さを感じました。ローレンス・カスダンは、ファンの中で最も人気の高い『スター・ウォーズ/帝国の逆襲』の脚本家です。スティーヴン・スピルバーグ監督の『レイダース/失われたアーク（聖櫃）』の脚本、そして監督作品『偶然の旅行者』は、アカデミー賞にノミネートもされています。

その彼を再び脚本家として起用したところに、制作陣の新作に懸ける意気込みと冷徹な計算を感じました。ローレンス・カスダンの脚本による『スター・ウォーズ/帝国の逆襲』は、シリーズの核となる「フォース」という能力が深く描かれ、以降のストーリーに厚みを加えています。「フォース」取得の修行を通じて交わされる主人公ルーク・スカイウォーカーとヨーダの哲学的な言葉。また、ダース・ヴェイダーの衝撃的な告白には、ギリシア悲劇『オイディプス』のような象徴性もあるように思えます。

このように単なる娯楽を超えてある種の深みをもたらしたのが『スター・ウォーズ/帝国の逆襲』です。細部を深く掘り下げて読み解くのも良いし、娯楽として楽しむこともできます。新作を観て興味がわいた方は是非ご覧ください。May The Force Be With You ! (R2彰義)

2015年12月29日。私はこの日を待ちわびていた。冬休みが楽しみだからではない。大晦日のガキ使は展開がワンパターン化してきているし（2015年は面白かったけど）、お年玉が貰えたのはもう遠い昔の話である。私はこの日、我慢に我慢した『スター・ウォーズ エピソード7』を観に行くのである。12月18日に公開されたのだからさっさと観に行けばいいのに。読者の皆様は思うだろう。実は私には「仕事納めまで観たい映画を我慢すると傑作に出逢える」というジンクスがあり、2015年の作品はスター・ウォーズにしようと思心に決めていたのである。（ちなみに、2012年は『007 スカイフォール』、2013年は『ゼロ・グラビティ』、2014年は『ゴーン・ガール』と傑作ばかり）

前振りが長くなってしまった。エピソード7の様に話を前に進めよう。

仕事が終わりと、納会をビール1杯で早々に退散、いざTOHOシネマズ日劇へと向かう。予約していた前寄りの席のチケットを発売券、1杯720円もする生ビールを購入し、座席へと向かう。順調にスター・ウォーズ鑑賞に駒を進めていると思えていたが、座席に座った瞬間、衝撃の光景が目に移った。

前の人の座高が高い！画面下中央が前の人の頭で隠れてしまっている。これでは字幕も満足に読めないじゃないか。ただ、座高が高いのは致し方ないことだから前の人に何ら罪はない。かといって、私が背筋をピーンとすると後ろの人の視界をふさいでしまう。もし、後ろの人も背筋をピーンとしたらそれが連鎖的に行われ、後列の人は席をとったのにも関わらず立見を強いられることになる。本件について私のインサイド・ヘッドで緊急会議がなされた結果、大事なシーンと思われる時だけ一瞬背筋をピーンとしようという結論に至った。その日劇場で挙動不審な人を見たというあなた、たぶんそれは私です。恐らく私の司令塔はヨロコビでもカナシミでもなく、ビビリなんだろう。

しょーもない話ばかりで字数が足りなくなりました。結論を言うと宇宙を舞台にした、壮大な冒険、アクション、そして人間ドラマが繰り広げられる傑作に出逢うことができました。本会報の出る時期でもまだ公開している映画館はあると思うので、ぜひ劇場で鑑賞することをお勧めします。(オビワン久木野)



A FILM ABOUT COFFEE

ア・フィルム・アバウト・コーヒー

次回特別上映会は

『a film about coffee』

(ブランドン・ローパー監督) を上映いたします。

お楽しみに！



第16回TAMA NEW WAVE

第16回TAMA NEW WAVE 受賞結果は
以下になりました。
おめでとうございます！

グランプリ

『いたくてもいたくても』 堀江貴大監督

特別賞 (多摩商工会議所 会頭賞)

『ムーンライトハネムーン』 富永太郎監督

ベスト男優賞

嶺 豪一 氏 (『いたくてもいたくても』)

ベスト女優賞

澁谷麻美 氏 (『いたくてもいたくても』)



©TAMA CINEMA FORUM

お知らせコーナー

実行委員募集!

TAMA 映画フォーラム実行委員会は、2016年11月19日～11月27日に開催予定の「第26回映画祭 TAMA CINEMA FORUM」を一緒に作る実行委員を募集しています！興味のある方、企画・運営などの映画祭の裏面に携わってみませんか？

上映プログラムを企画したい、イベント運営に興味がある、広報・宣伝をやりたい...など、映画祭づくりの現場には、あなたの希望に沿って力を発揮できる領域がたくさんあります。また、映画好きやイベント好き、地域の方々など、市民が作る映画祭だからこそその出会いがあなたを待っています。

この度4月17日(日)に説明会を開催いたしますので、興味のある方はお申込のうえ、ぜひご参加ください。また、説明会は今後も5月に開催を予定しておりますが、日程の合わない方は個別に説明いたしますので、お気軽にご相談ください。(詳細はホームページをご覧ください。)

支援会員制度のお願い

当映画祭を一緒に支えて頂ける支援会員を募集しています。映画を「観る人、観せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポート頂けませんか。

ご支援頂いた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願いいたします。

[支援金寄付 個人会員] 一口 1000円

郵便振替番号 00160-5-541123 加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会

特典①:映画祭チラシ送付 特典②:映画祭パンフレット贈呈

特典③:特別上映会割引(当日料金が半額! 2～8月の間に4～5回開催予定)

※その他特典もご用意する予定です。

シベ超ニュース

今年はずいぶんシベ超新作が製作・公開されるらしいです。何年も前から同じことを書いている気もしますが、括弧して待ちましょう！

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ www.tamaeiga.org



@tamaeiga (最新情報をフォロー)



www.facebook.com/tamaeiga (facebookページに「いいね!」で参加)